

第一生命保険株式会社池袋総合支社池袋エリア &
特定非営利活動法人豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク
※パートナーの非営利団体からの応募

■活動開始年月：2020年5月1日 ■企業ボランティアの数(実数)：45名

■活動のきっかけや経緯：

第一生命保険株式会社池袋総合支社池袋エリアでは、コロナ緊急事態宣言以降、顧客と会うことで成り立つ保険会社が全く営業できない状況下、「そんな時こそ地域に貢献しよう！地域を盛り上げよう」という気運が高まり、社内でボランティア活動についてのリサーチを実施しました。その際に、自身もシングルマザーで3人の子育て真っ最中の営業社員が、豊島区を中心に子ども食堂や学習支援、プレイパークなどの支援活動をしている豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク(WAKUWAKU)とつながり、その活動、特にコロナ禍で毎月実施している食糧支援が本当に助かっていることを紹介したところ、「地域のひとり親世帯や経済的困窮世帯の子どものために、食を支援しよう！」と社員一同が意気投合したそうです。



■ボランティア活動の内容：

「フードサポート(食料支援)では、どのような食が喜ばれるのか？」と社員から WAKUWAKU に質問がありました。「米やパスタ等の麺類、野菜、レトルト等がありがたい」と伝え、社員の寄付金でそれらの食材を購入してくれました。例えば、野菜は会社の顧客である農家さんのところに社員が出向き、玉ねぎを収穫し、袋詰めして WAKUWAKU の事務所に届けました。

WAKUWAKU のフードサポートは当初、10拠点において毎月1回実施していましたが、9月には、官民連携で、各小学校区にある地域交流施設(区民ひろば)で、ひとり親世帯を対象に実施することになりました。土曜・日曜の2日間にかけて、22か所の区民ひろばで同時にフードサポートを展開するには、各拠点10人のボランティアが必要であり、総勢220人のボランティアを必要とする事態になりました。その際にも、第一生命の社員がそれぞれの担当地域の拠点で、米や食材をお渡しする作業や受付、力仕事など、様々なボランティア活動に関わってくれたのです。11月～12月にかけても、引き続き22拠点でフードサポートを実施しましたが、多くの社員が活動に参加し、大変助かりました。

■活用されている企業のリソースや従業員のアイデア：

○22か所の区民ひろばの建物は間取りも様々ですが、「受付」→「お得な情報提供」→「食材配布」→「アンケート記入」→「WAKUWAKU への登録作業」といった一連の流れの動線について社員から提案がありました。

○受付や情報提供、アンケート記入のおすすめ、二次元コードからの登録の説明など、社員ボランティアはふだんお客様と接しているプロだけあって、とても上手に対応していました。

○コロナ対策として、人が密にならない工夫など、活動でクラスターをつくらぬような目配りや配慮を担当。

○フードサポートの開催に向け、22拠点の中でボランティア不足の場所を伝えると、池袋周辺に点在する支社と連携し、ボランティア人員を確保してくれました。

■活動を通じて得られた成果：



第一生命の社員ボランティアの協力のおかげで、9月～12月の22拠点でのフードサポートでは、延べ1437世帯のひとり親家庭を支援することができました。

また、社員の方たちにとっても、この活動を通じて、ひとり親の方がお米5キロをどれだけありがたいと感じているかや、仕事と家事・子育てを両立して頑張っているひとり親の方々が区内にたくさんいることを知る機会になりました。まだ食べられるのに捨てられてしまう大量の食材を目の当たりにし、食品ロスという社会課題にも気づかれました。

社員の方々は、官民での円卓会議にも出席して下さり、今後の支援意欲も非常に高まっているようです。

第6回企業ボランティア・アワード
ユースサポート奨励賞